

「救いの杯を上げて」詩編に親しむⅡ

2019年11月17日（日） 奈良基督教会
講話・司祭 井田 泉

聖歌 495 イエスよ、わが神よ

開会の祈り

I 詩編第116編 わたしは主を愛する

- ・春に続き「詩編に親しむ」の第2回。今回は第116編を味わってみたい。
- ・新共同訳で1～7節をゆっくり一緒に読んでみる。（しばらく沈黙）

1. 「1 わたしは主を愛する。」

この言葉だけをまず大切にしたい。

いろんなことがあっても、ここにわたしたちの信仰と祈りと生活の中心がある。

ここに戻りたい。

「わたしは」 人がどうであれ、この世がどうであれ、わたしは。

「主を」 ほかに大切なものがあり、心をひかれるものがあるとしても、主を。

「愛する」 信じ、迷い、従い、逆らい、あるいは忘れていたことがあったとしても、今、わたしは主を愛する。

主の愛がわたしのうちに注がれ、流れ込んでいるのを思いつつ、わたしのほうからも、新しく主を愛する。

この1節が、今日のわたしに伴い、わたしを生かす。

——こんなふうに詩編を毎日味わってみたい。それがわたしの慰め、励まし、力となる。

2. 「1 主は嘆き祈る声を聞き、2 わたしに耳を傾けてくださる。」

主は聞かれる。心を傾けて聞いてくださる。

「耳を傾けてくださった」と過去形に訳される場合もある。

過去あるいは現在の神経験の確認。主への信頼の告白。

わたしの嘆き、祈りを主の前に注ぐ。

——神さまとの関係（対話）はいつも整ったものである必要はない。本音で、子どものように訴え、あるいはつぶやくことも大切。

3. 「2 生涯、わたしは主を呼ぼう。」

新しい決意。今だけではなく、生涯にわたる決意をこの詩人は表明している。ここから主を呼ぶ人生が新たに始まる。

4. 「3 死の綱がわたしにからみつき、^{よみ}陰府の脅威にさらされ、苦しみと嘆きを前にして
4 主の御名をわたしは呼ぶ。『どうか主よ、わたしの魂をお救いください。』」
詩人（作者）は死の危険にさらされ、恐怖におののいている。その中から主の御名を呼ぶ。

II 詩編第 116 編と主イエスの最後の食卓

1. この詩編は主イエスが弟子たちと共にされた最後の食事（過越の食事）の終わりに歌われたとされる。
113～114 編が過越の食事の前、115～118 編が食事の後に用いられたという。
マルコ 14 章から
「23 また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。24 そして、イエスは言われた。『これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。……』26 一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。」
ここでイエスは弟子たちとともにこの 116 編を祈り歌われたに違いない。
とすれば、この詩編全体を主イエスの祈りとして読むことができるし、そうしてみたい。
2. 「13 救いの杯を上げて主の御名を呼び、
14 満願の献げ物を主にささげよう、主の民すべての見守る前で。」
「救いの杯」 最後の食卓において主イエスは救いの杯を上げ、祈られた。
そのとき「満願」とはすべての人が救われることであり、「献げ物」は主イエスご自身であった。
聖餐式の感謝・聖別の祈りの中で、司祭は杯を上げる。これは主イエスのなさったことを再現するもの。
3. 「15 主の慈しみに生きる人の死は主の目に価高い。」
このとき主イエスは、現実にご自身の死をここに重ねておられたに違いない。
この詩編には「死」という言葉が 3 回出てくる（3、8、15 節）。イエスにご自分に迫る（ご自分が引き受けようさされる）死を意識しておられただろう。
4. 「16 どうか主よ、わたしの縄目を解いてください。わたしはあなたの僕。わたしはあなたの僕、母もあなたに仕える者。」
ここでイエスは、ご自身とともに母マリアを思われたのではないだろうか。
5. 「18 主に満願の献げ物をささげよう、主の民すべての見守る前で
19 主の家の庭で、エルサレムのただ中で。ハレルヤ。」
この詩編は「ハレルヤ」（主を賛美せよ）で閉じられる。
イエスはここからオリーブ山のゲッセマネに向かわれる。
わたしたちも主イエスと共に、たとえ困難が待ち受けていてもそれに立ち向かい、賛美を

もって進みたい。

(休憩)

♪カトリック典礼聖歌から「主の十字架を仰ぐとき」

Ⅲ 黙読と分かち合い

・詩編 116 編をそれぞれ読み、心にとまったひとつの節を書き写してみましょう。

(メモ)

・近くの人と感じたことを自由に分かち合ってみましょう。

(メモ)

結び

祈りのいくつかの要素

- ・呼びかけ 「どうか主よ」 4、16 節
 - ・思いのつぶやき、訴え 「わたしの魂をお救いください」 4
 - ・救い、信仰の告白 「わたしは信じる」 10
 - ・祈願 「わたしの縄目を解いてください」 16
 - ・感謝 「あなたに感謝のいけにえをささげよう」 17
 - ・賛美 「ハレルヤ」 19
 - ・決意 「生涯、わたしは主を呼ぼう」
 - ・
-

○詩編の中に、昔の（わたしとは違う）人の祈りを聞く。

○詩編の中に、自分の思い、祈りを発見する。つながり、響き合いが起こる。

○詩編の中に主イエス・キリストの祈りを聞く。

○詩編はわたしたちの信仰を養い守る。

祈り

祝祷

聖歌 495 イエスよ、わが神よ